

三重大学で行った社会実験

地域の産業界と連携した教育を行う**地域イノベーション学**研究科を2009年度に新設し、地域企業の経営者に学ぶ場を提供した。

1) 大学院で学び覚醒した経営者の破壊力はすごい!

(例)



(株)浅井農園 浅井雄一郎社長
(2010年4月入学)
高収益型トマト栽培農業を実現



(有)あびや 小田島春樹社長
(2016年4月入学)
来客予測AIで店舗の利益が15倍

2) 企業の社長と身近に接することで、地域産業界に卒業生が就職する流れができた

地方国立大学には地域産業を覚醒させる力がある

- ◆ 地域産業には成長する潜在力があるが、実行力が脆弱である。
- ◆ 地方大学には地域産業の潜在力を引き出す能力（地域産業を熟知、中長期的な連携、幅広い研究力、人材育成機能など）が整っている。

一方で

内向き志向が自らの潜在力を封印している

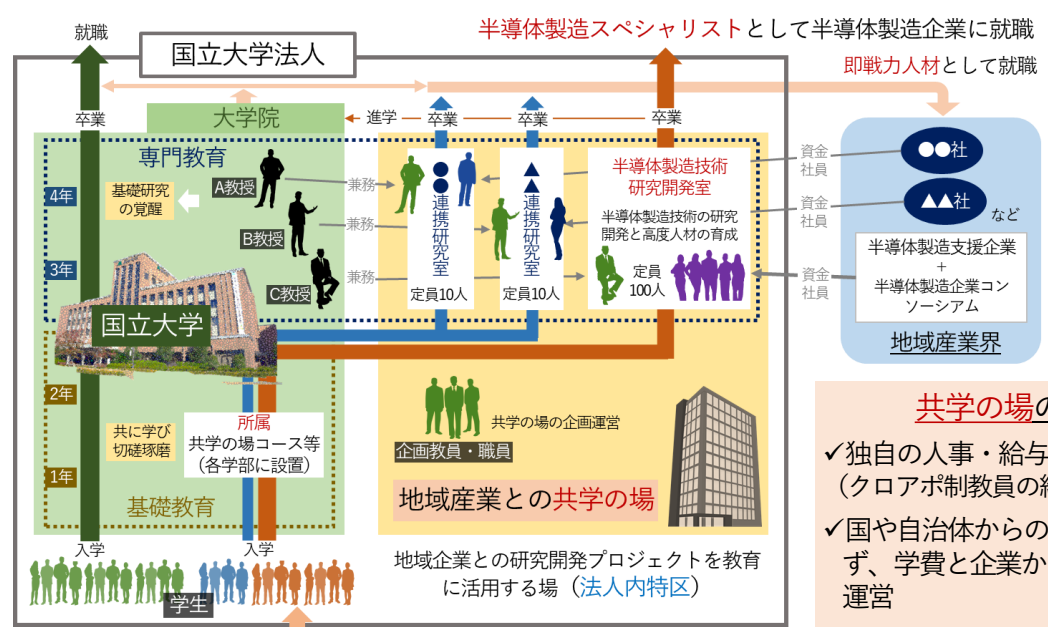
地方国立大学が覚醒し、地方から日本を変えるために

施策①

定員拡大（100-400名）によって「**地域産業との共学の場**」を設置することでその大学にしかできない**人材創り**を実現し、既存の学部・研究科と切磋琢磨させることで、地方国立大学が持つ**潜在力を余すことなく発揮**させる。

【三重大学が進めたい新たな仕組み】

三重大学にしかできない**人材創り**を実現



施策②

地方国立大学をが連携して戦略を考え、必要な人材を相互派遣することで各大学の**地域産業を牽引する力を強化**する。



自前主義を脱却し、地域産業を本気で牽引する

地方国立大学が覚醒することへの障壁

- 1) 構成員によるステークホルダーの誤認
 - 教職員の意識 → 学会・教授会・文科省
 - ◎ 実社会の期待 → 学生・地域社会・国民
- 2) 働きを客観評価する意識と習慣がない
 - 自己評価主義の慣習（暗黙の常識）の打破

共学の場の特徴

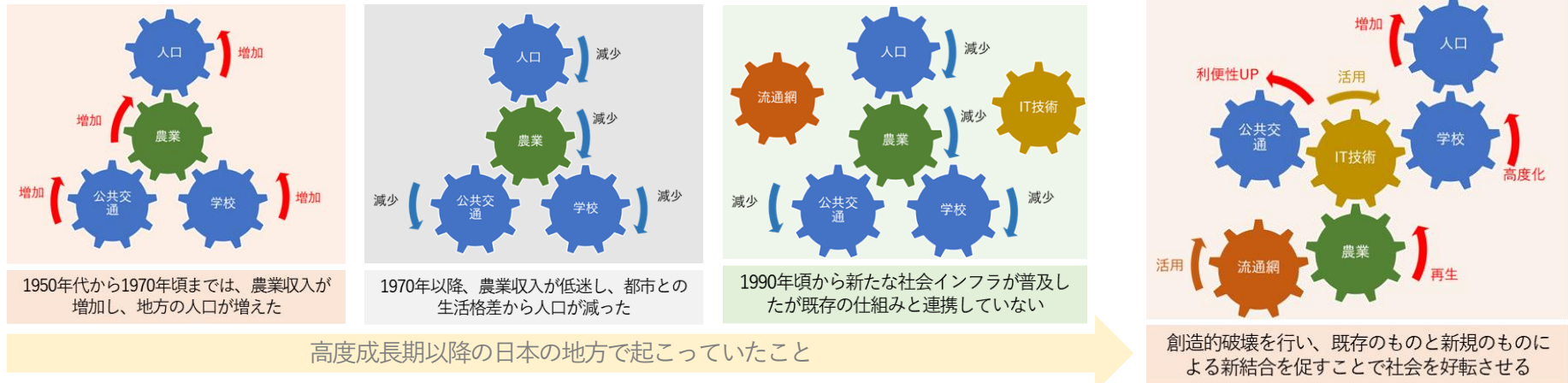
- ✓ 独自の人事・給与制度を置く（クアポ制教員の給与2倍など）
- ✓ 国や自治体からの支援のみならず、学費と企業からの資金での運営
- ✓ 学生定員：100-400名/年

健全なライバルを置き、切磋琢磨させる

私が考える地域イノベーションの姿 (基本的概念) と意義

閉塞状態を打破する手段の一つとして、**創造的破壊による新結合**を生み出すことで、**時代に適した社会システムを創造する社会イノベーション**とも言える手法が有効であると私は考える。私は、このような社会イノベーションは、**日本社会では深刻な衰退が生じている地方から先行して生じると予測**しており、このような**地方から発生する社会イノベーション**を「**地域イノベーション**」と位置づけ、具現化を三重県の地において試みている。

地域イノベーションが生じたときの姿 (イメージ)



創造的破壊による**新結合**を地域内に生み出すことで新たな価値を創造し、時代に適した社会システムを創造する「**地域イノベーション**」を誘発する

地域イノベーションの事例 辻製油株の取り組み



辻製油株式会社
(三重県松阪市)

辻保彦 会長

食用油の精製・販売に加え、食用油精製残渣からレシチン、セラミド等、機能性素材を製品化する食素材の総合メーカーとして成長を続けている。



森林に放置される間伐材

社会長が松阪市近郊の山林が荒廃していることを憂慮



ウッドピア松坂に集められる木材

間伐材を集め木材チップを製造する仕組みを構築



松阪木質バイオマス熱利用協同組合の木材チップを用いるボイラー施設

木材チップを石油の代替燃料として蒸気を製造



辻製油の本社と隣接する搾油工場

搾油工場の動力源として木材チップ由来の蒸気を利用

石油換算で年8,000kl
CO₂発生を年23,000ト
製造コストを年数億円
削減

林業が衰退し、森林には価値がない (固定概念)

ボイラーでの蒸気製造には石油を使う (固定概念)

創造的破壊

森林資源を熱源として利用する
森林×搾油工場 ⇒ 新結合

新しい価値と富の創造

地域イノベーションの事例 うれし野アグリ(株)の取り組み

2013年に辻製油・浅井農園・三井物産の3社が株主となってうれし野アグリ株式会社が設立された。うれし野アグリでは、辻製油から排出される植物油脂製造に使用された蒸気由来の90°Cの熱水を隣接するトマト栽培ハウスに送り、冬の暖房エネルギーとして利用することを実現した。約90名の雇用創出と障がい者が活躍できる場を構築し、**国内最高レベルの高収益型農業** (反収1,500万円=稲作農業の100倍以上) を実現した。

うれし野アグリ創業の経緯

2011年ごろ

搾油後の熱湯の有効利用がないか？

辻製油(株) 辻彦彦会長

相談

トマト栽培にかかる燃料費が高く困っている

浅井農園 浅井雄一郎社長

現在

世界最先端のオランダ式ハイテクハウス



新結合

日本で独占的に栽培ができる新品種



新結合

隣接する搾油工場から排出される90°Cの高温水



新結合



新結合

新結合

新結合



日本最大規模のLED照明配備のトマト栽培施設



木材チップを燃焼することで製造する蒸気



地域の森林で廃棄されていた間伐材などの木材資源



うれし野アグリ創業 (2013年)



新しい富の創造

- ✓ 世界最先端の栽培施設×栽培管理方法×独占品種×工場排熱利用によって、**国内最高レベルの高収益型農業** (反収2,300万円=稲作農業の150倍以上) を実現した。

地域社会への貢献

- ✓ 地域に100名以上の雇用と障がい者の雇用の場を提供した。特に子育てを行う主婦層に新たな職場を提供した。
- ✓ 冬の低日照量を補うため国内最大のLED照明施設を配備したトマト施設を新設し、年間を通じた安定生産を実現し、**安定した雇用機会を提供することを実現した。**

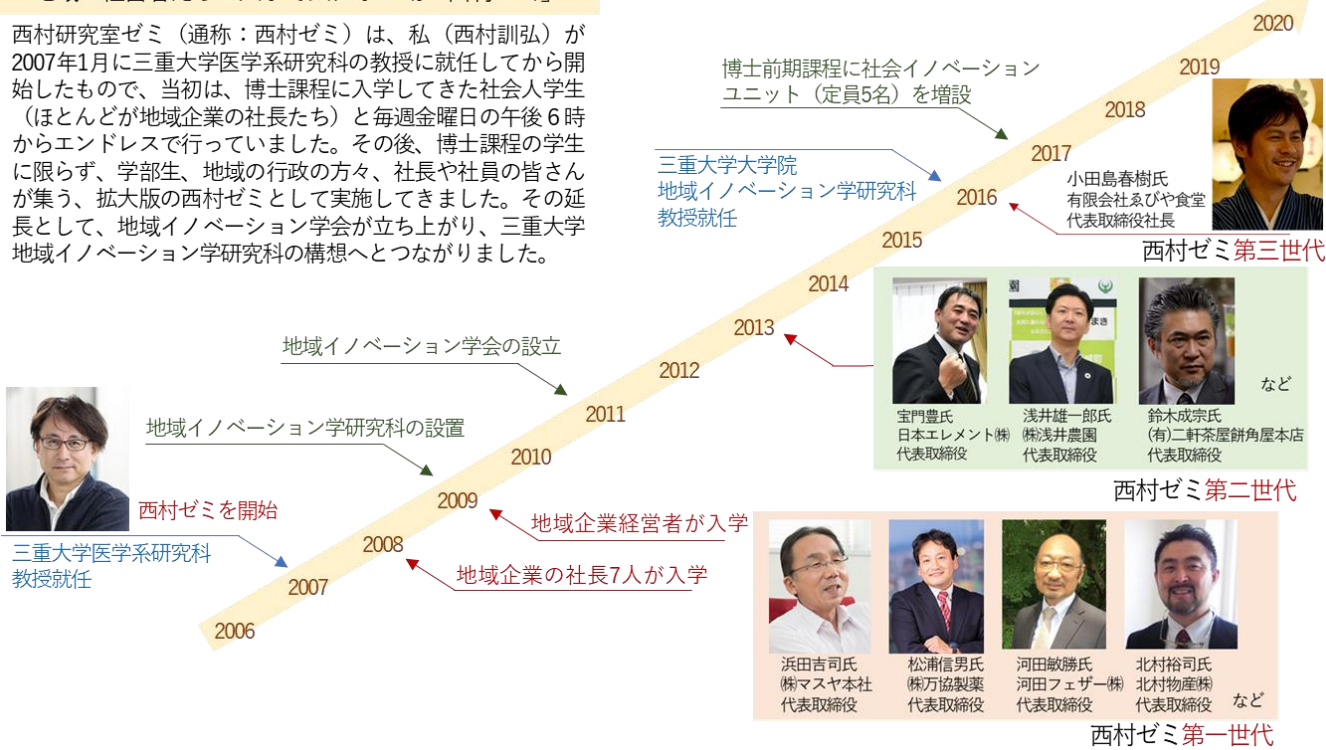
新しい社会システムの構築

- ✓ 衰退していた林業の再生と林業分野での雇用創出を導くことで、地域社会への貢献を果たした。
- ✓ 再生可能な森林資源を出発点とするエネルギーのカスケード利用を具体化し、**エネルギーロスのない持続可能型事業モデルを実現した。**

地域の社長たちと行ってきた取り組み (西村ゼミ)

地域の経営者たちと大学で共に学ぶ場「西村ゼミ」

西村研究室ゼミ (通称: 西村ゼミ) は、私 (西村訓弘) が 2007年1月に三重大学医学系研究科の教授に就任してから開始したもので、当初は、博士課程に入学してきた社会人学生 (ほとんどが地域企業の社長たち) と毎週金曜日の午後6時からエンドレスで行ってました。その後、博士課程の学生に限らず、学部生、地域の行政の方々、社長や社員の皆さんが集う、拡大版の西村ゼミとして実施してきました。その延長として、地域イノベーション学会が立ち上がり、三重大学地域イノベーション学研究科の構想へとつながりました。



西村ゼミを開始

三重大学医学系研究科教授就任

地域イノベーション学研究科の設置

地域イノベーション学会の設置

西村ゼミ第一世代
浜田吉司氏 (株)マスマヤ本社 代表取締役
松浦信男氏 (株)万協製薬 代表取締役
河田敏勝氏 河田フェザー(株) 代表取締役
北村裕司氏 北村物産(株) 代表取締役 など

『シュンペーターが提示した新結合が出現する姿』
*シュンペーター-孤高の経済学者- 伊東光晴・根井雅弘著 岩波新書を参照

シュンペーターによれば、**新結合は群生して現れる**という。なぜなら、「一人あるいは数人の企業者の出現が他の企業者の出現を、またこれがさらにそれ以上のますます多数の企業者の出現を容易にするという形で作用する」からである。

イノベーションにはGAF Aなどのグローバル展開する大きなイノベーション (大文字の INNOVATION) と、それらとは一線を画すが、地域内での新たな結合で生み出される小さなイノベーション (小文字の innovation) も存在する。私たちは小文字の innovation の破壊力も実感しており、その連鎖によって社会を大きく変革できると確信している。

私たちが目指すイノベーションの姿

